

第6回 多文化子育てサークル@知立市
第5回 多文化子育てサークル@豊田市

報告

愛知県多文化共生推進室では今年度、知立市と豊田市の2カ所で「多文化子育てサークル」を実施しており、知立市では「NPO 法人 みらい」、豊田市では「NPO 法人 トルシーダ」へ事業を委託しております。

この度、12月16日（土）10時30分から知立市での第6回目、14時から豊田市での第5回目のサークルが開催されました。

知立市のサークルでは、「おもちゃ」をテーマにした県外のNPO団体に全面的に御協力いただきました。団体が選定した優良なおもちゃを御用意くださり、子どもたちは初めてのおもちゃに夢中になって遊んでいました。おもちゃをとおして親子が一緒に遊ぶ様子も見られました。

また、「おもちゃコンサルタント」の方から、子どもとおもちゃについての話がありました。子どもはおもちゃをとおしてものごとを学び、成長すること、また、保育園や子育てサークルなどに出かけ普段と違うおもちゃで遊ばせることで子どもの新しい一面を発見できるなどのお話がありました。おもちゃを選ぶ際には、親が「遊ばせたい」おもちゃではなく、子どもが「遊びたい」おもちゃを選ぶことが重要というお話もありました。

また、前回に引き続き、みらい Jr. の活動に参加しているブラジル人のお母さんたちから、リズム遊びの出し物がありました。ブラジルの遊びをそのまま紹介してくださっているのかと思いきや、参加しているお母さん自身がつくった遊びだそうで、完成度の高さに驚くばかりでした。ひとりの参加者が歌を歌いながら部屋中を練り歩き、他の参加者を指名し、指名された参加者は先頭の方の後ろについて一緒に部屋を練り歩き、また別の参加者が指名され・・・ということを繰り返し、最後には参加者が長い列になって輪を作ります。サークルの中で保護者同士の交流をつくらうとする時、特に国籍を超えた交流はなかなか生まれにくかったのですが、この遊びをとおして参加者に連帯感が生まれてきたようで、素晴らしい遊びだと感じました。

最後に、「ピニャータ割り」という中南米の遊びをしました。風船や張りぼての中にたくさんのおもちゃやお菓子が詰められており、子どもたちがスイカ割りのようにその張りぼてを割り、落ちたお菓子やおもちゃを拾い集めます。今回は張りぼての強度が強かったこともあり、年齢の高い子どもが小さな子どもたちをサポートしながら、参加しているほとんどの子どもたちがピニャータ割りを楽しむことができました。

一方、トルシーダのサークルでは、クリスマス会を行いました。60人を超える親子に参加いただくことができ、とよた市民活動センターのホールがいっぱいになるほどでした。

サークルの中では、既存の子育てサークルで活動されている方から、「スキー」や「お年玉」など日本の冬のイベントや正月等、日本文化にまつわる話をしていただきました。また、フィリピン、ブラジル、中国、ベトナムの、それぞれの出身国の方たちが、写真や映像なども使いながらそれぞれの国のクリスマス・お正月の過ごし方などについて発表くださいました。

日本の文化を一方向的に伝えるだけでなく、参加者にも自分の文化を発表してもらおう機会をつくったことで、参加者の主体的な参加を促すことができました。また、中国の文化については、子どもたちが中心となって発表してくれ、子どもたちの誇らしげな表情がとても印象的でした。このように、様々な文化を持つ人が対等な関係を築いている環境の中で、自分の文化を発表できる機会をつくることは、子どもたちに自分のルーツに誇りを持ってもらうことにもつながるのではないかと感

じ、今後の「多文化子育てサークル」でも、日本人から外国人への一方的な支援にならないよう、外国人が主体的に楽しんで参加して下さるサークルづくりに今回学んだことを生かしていきたいと思います。

今回のサークルについては、参加者からも、「違う国の人と知り合えてよかった。」「日本人と話ができてよかった。」など、他の国の参加者との交流を喜んでいただけているようなコメントがありました。また、「子どもは学校ではいつも1人だが、今日はブラジルの友達と遊べてよかった。」といった声もあり、居場所づくりとしてのサークルの意義を再確認する機会ともなりました。

大人は子どもとちがい、同じ空間にいるだけではなかなか交流が広がらず、特に保護者の国籍を超えた交流については、今年度サークル事業の開始以降、なかなか難しいものだと感じてきました。しかし、今回、知立市・豊田市両方のサークルにおいて、ようやくこの課題を克服するための光が見えてきた気がします。今回の知立市のリズム遊びは、親子だけで完結する遊びではなく、参加者みんなでつくりあげるものだったからこそ、自然に保護者同士が交流できるものでした。また、トルシーダで実施したそれぞれの文化の発表は、他文化に関心を持って他の国籍の保護者に話しかける良いきっかけになり、実際、発表後の質問時間では、他の国籍の保護者から様々な質問があがっていました。加えて、事業も終盤となり、顔を合わせる回数を重ねることで、少しずつ交流が広がってきたということもあったと思います。

今回事業を実施している2団体は昨年度の「子育て外国人の日本語習得モデル事業」に引き続き県の子育て事業を実施してくださっていますが、昨年度から継続的に実施してきたことで参加者が増えたり、常連の方がでてきたりしていると聞いています。そうした点からも、継続的な事業実施の重要性を感じており、今後は市町村等への普及についても取り組んで参りたいと思っております。

さて、次回のサークルは、1月27日（土）10:30～13:00に知立市で、2月3日（土）14:00～16:00に豊田市で実施いたします。知立市、豊田市ともに最後のサークルになります。一組でも多くの外国人親子に参加いただければと思っておりますので、周りにそうした方がいたら、教えてあげてください。

また、保育士の方や保健師の方、行政の方、NPOの方など、どなたでもサークルを御覧いただくことができます。「多文化子育てサークル」の周知と普及のため、ひとりでも多くの方の御理解・御協力をいただければと思っております。

詳細、チラシについては、以下のウェブサイトでご確認ください。

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/kosodate-circle.html>



